

□ アナリスト週間相場予想

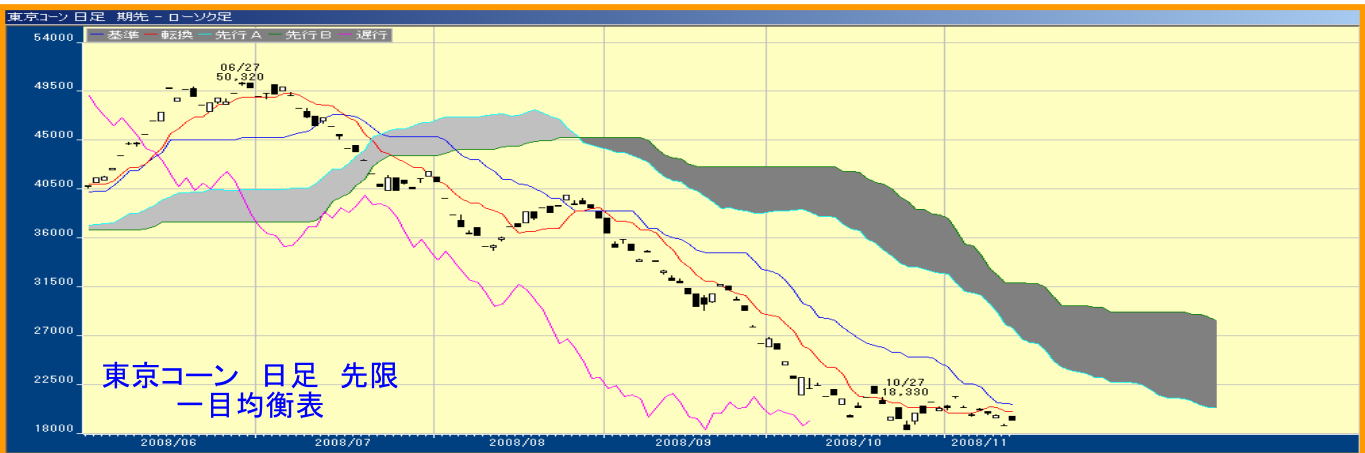
	 コーン Corn	 大豆 Soybean
江崎		
西		

Pick up News

〔注目スケジュール〕

- 11/17 米農務省 (USDA) 週間輸出検証高
USDAクロープ・プログレス
- 20 USDA週間輸出成約高
米大豆圧砕高
- 21 キャトル・オン・フィード (集中肥育場内の牛頭数)
米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



先週に引き続きテクニカルチャートの環境は大きく変化なし。上図はコーンの日足に一目均衡表を付してあるが、大豆に同じ指標を被せると若干異なる形となる。まず、コーンは転換一基準ペアが未だ逆転状態であり先週から変化が見られない。対して一般大豆のほうは転換一基準ペアが好転しており、久し振りに一目の三役の一つが買いサインを示している。日足RSIはコーンが50を越えられない中、一般大豆は50を越えて尚上昇傾向を示している。もう一週間程度の日柄を稼げば、コーン売りー大豆買いのスプレッドが活きる展開が予測できる。大豆の押し目買いを中心に置いてコーン売りヘッジを推奨したい。(11/14 14:37現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

11月需給報告はコーン・大豆どちらにもインパクトの欠ける内容であったが、内容を精査してみれば、やや大豆に有利な展開が読み取れる。まず、コーンに関しては、イールドの下方修正に応じて生産高が削られる一方で、輸出需要も引き下げられ、期末在庫予想は上方修正される結果となっている。なお、エタノール向けは据え置き。9月以降に世界経済の見通しが急速に悪化したことや、原油価格の急落を背景に考えれば、エタノール需要は今後減少するリスクがあり、この点からは弱含みの需給報告であったと言えよう。米国の収穫はまだ70%超の段階で、目先の収穫作業に対する警戒感が残るが、市場は強材料には鈍感であり、上値の重さは拭えない。

大豆の場合も状況は似ているが、こちらは輸出需要が据え置かれ、海上輸送コストの低下から中国が買い付けに回っている現状を見れば、むしろ強含みの内容と判断できる。需給相場に移行する中、輸出動向が至上のテーマとなるものと思われ、米農務省予想と実体との乖離が判断基準となってきた。ただ、こうしたファンダメンタルズに回帰した相場展開になるには、まず金融市場が落ち着くことが前提条件でもある。13日の米株式市場は底割れを回避して急反発に転じ、これが商品価格にも上昇圧力を掛けることになったが、まだ不透明感を取り除かれていない。今はまだ個別銘柄が物色対象とはなっておらず、コモディティ(商品)として一括りで動いている感じが強い。そのため、代表格の原油相場の動向に影響を受けやすく、底入れが先延ばしになる可能性があることに留意したい。この辺りから価格分散、時間分散して買っていく分には問題はないだろう。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

RE0079 (許可取得日08/11/14)